

(社) 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第1回 放射性廃棄物管理分科会 (F2SC) 議事録

1. 日時 平成12年5月24日(水) 14:00~17:00

2. 場所 (社) 日本原子力学会 会議室

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 森山(主査)、出光、上田、大江(議事(7)より)、苅込、佐々木、豊原、藤原、本山、山本(10名)

(代理出席委員) 武部(小川委員代理)(1名)

(欠席委員) 坂下、松田、馬原、油井(4名)

(常時参加者) 飯村、田村、三塚、宮川(4名)

(事務局) 太田、市園

4. 配布資料

F2SC1-1 標準委員会の活動状況について

F2SC1-2 委員名簿(委員会、専門部会、分科会)

F2SC1-3 分科会主査他の選任方法について

F2SC1-4 標準委員会規程

F2SC1-5 標準委員会運営内規(案)

F2SC1-6 標準委員会規程・部会規程、内規の解説

F2SC1-7 標準委員会活動の基本方針(案)

F2SC1-8 原子燃料サイクル専門部会の活動方針(案)

F2SC1-9 放射性廃棄物管理分科会における標準化に関する進め方について

参考資料

F2SC1-参考1 標準委員会委員会関連欧文名称及び略称

F2SC1-参考2 標準制定までの経過

F2SC1-参考3 日本原子力学会 標準委員会 標準作成手引き(案)

F2SC1-参考4 (社) 日本原子力学会 投稿規定

F2SC1-参考5 日本原子力学会誌 投稿の手引

F2SC1-参考6 標準委員会等の開催予定と実績

5. 議事

(1) 経緯の説明

事務局より標準委員会設立に至るまでの経緯及びこれまでの活動状況の説明を行った。(F2SC1-1)

(2) 出席者自己紹介

出席した委員及び常時参加者がそれぞれ自己紹介を行った。(F2SC1-2)

(3) 主査の互選

事務局より主査選任方法の説明の後、選任方法について出席委員全員の了解が得られた。(F2SC1-3)

出席委員10名全員(代理含む)による無記名投票が行われた。その結果、森山委員が主査に選出された。

投票結果; 森山委員 得票 9票

小川委員 // 1票

(4) 副主査、幹事の指名

森山主査により、小川委員が副主査に指名された(欠席のため事務局にてご本人の意向を確認し、各委員へ連絡)。また、幹事については、小川副主査欠席のため、主査、副主査の協議の後、事務局を通して各委員へ連絡することとした。

(5) 標準委員会規程、運営内規(案)の説明

事務局より標準委員会規程、運営内規(案)、部会分科会等規程(案)の説明を行った。コメント等について事務局まで連絡することとした。(F2SC1-4, F2SC1-5, F2SC1-6)

(6) 標準委員会活動の基本方針(案)の説明

事務局より標準委員会活動の基本方針(案)の説明を行い、公開性について以下の通り確認を行った。(F2SC1-6, F2SC1-7)

・HP上に掲載する議事録に配付資料及び参考資料を記載し、公開性を確保する。

(7) 原子燃料サイクル専門部会の活動方針（案）の説明

飯村氏より説明があり、議論が行われ、コメント等について事務局まで連絡することとした。主な意見を以下に示す。(F2SC1-8)

- ・ 「機能性化」とは、構造や材料などの詳細規定は民間規格を適用し、国としては法律等において性能や機能要求のみを規制として行うことである。

(8) 分科会の進め方について

佐々木委員より説明があり、議論が行われた。主な意見を以下に示す。(F2SC1-9)

- ・ 本分科会で扱う案件を整理し必要に応じ作業会を作ることも検討する。
- ・ 分配係数に関し標準化を行わなければならない理由、必要性を整理することが必要である。
- ・ 標準化に関して、測定手法の適切さを確認、判断できるような標準試料等について検討することも必要ではないか。
- ・ 分配係数の測定方法を完全にマニュアル化するには、環境・対象によって相違することもあるため、難しい面がある。しかし、使用者に分配係数試験結果を提供する立場から考えると、どういった場合に分配係数を適用して良いか、試験方法の妥当性を証明する方法（標準ブランクの考え方等）、有機物の影響や新型バリア材の性能を相対的に判断する方法（分配係数を測定するべき代表的核種）、測定結果のばらつきがどの程度であれば許容できるかといった件について指針を示すような検討は、メリットがあると思われる。
- ・ 多数の元素が対象になろうが、出来るところから作り上げて行く方法もある。
- ・ 分配係数については、研究者、評価者および使用者でイメージが異なっている場合がある。本分科会で標準化を図る分配係数の概念を定める必要がある。
- ・ 学会のバックエンド部会の中に専門委員会を作ろうという意見もあり、標準委員会側から依頼を頂ければ、セミナーやワークショップを開催することも可能であり、部会の運営委員会では了解を得ている。
- ・ 標準委員会では、専門性の観点から学会の研究部会との連携も重要との認識がある。本分科会から研究部会へ検討を依頼することも可能である。
- ・ 個々の研究機関において分配係数の研究が進んでおり、本分科会において標準化が可能な部分をはっきりと分けし、その範囲について原案を作成することが必要であり、全ての範囲について検討を行うことは困難である。
- ・ 幹事を中心として実作業を行い、助走的に具体化を図っていくGrが必要である。

以上の議論を踏まえ、森山主査より本分科会においては、分配係数の標準化に関して作業可能な範囲、項目を明確にして、原案を構築するため、現在の状況や問題点などを調査整理することから始めることが提案され、全会一致で承認された。

また、上記作業を行うため、幹事を中心として、原案の素案（イメージ）を作製し、次回分科会で検討し、各委員で分担して原案作りを進めることが、全会一致で承認された。

なお、分科会名称については、分配係数以外のバックエンド領域の案件について委員の構成を替えて対応できる含みを残し現状のまま「放射性廃棄物管理分科会」とすることを専門部会へ提案することとした。

(9) 今後の予定

第2回分科会を6月21日（水）、28日（水）のうち委員の都合を事務局にて確認の後、別途連絡することとした。以上